

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900054		
法人名	株式会社 よろこび		
事業所名	グループホーム よろこび		
所在地	〒824-0512 福岡県田川郡大任町大字大行事4125番地1 Tel 0947-63-3555		
自己評価作成日	令和05年12月22日	評価結果確定日	令和06年02月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園に囲まれた静かな地域で、季節の移り変わりが目に見える環境にあります。利用者様が安全に安心して過ごせる事を第一に、一人ひとりが自分らしく過ごせるように、職員が関われる事を目指しています。そして、コロナウイルス感染症も5類となりましたが、その後インフルエンザが例年より早く拡大し、完全に元の生活様式になかなか戻れませんが、職員皆で元の生活様式に早く戻れるように、しっかり取り組んでいきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年02月05日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山や川、田んぼに囲まれた自然豊かな環境の中に2013年4月(よろこびⅡは2016年)に開設した定員18名のグループホームである。医療面は、利用者一人ひとりのかかりつけ医受診を継続し、状態変化に伴い往診に切り替え、ホーム協力医、訪問看護師との連携で安心の医療体制を整え、家族より希望があり条件が揃えば看取りを行っている。敷地内の畑で季節の花や野菜を育て、利用者に食べたい物を聞きながら、毎食職員手作りの美味しい料理を提供し、箸のすじ取り、土筆の袴どりを一緒に行う等、「食」の楽しみを大切にしている。開設時から勤めている職員も多く、スキルが高く経験豊富な職員が定着し、チームワークの良い安定したケアが提供できている。毎月のホーム便りの送付に加え、家族と密にコミュニケーションを取って利用者の暮らしぶりを伝え、誠実、丁寧に家族対応を行うことで、「母の表情が明るくなった」「このホームに入居できて良かった」と、家族から高い評価と信頼を得ている「グループホーム よろこび」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20.40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪 ねて来ている (参考項目:2.22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32.33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成した基本理念を毎日出勤者全員で朝礼時に読み、共有し、日々の対応に実績している。	ホーム独自の基本理念を見やすい場所に掲示し、毎朝の申し送りの最後に唱和して、理念の意義や目的を共有している。職員は、利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者の心に寄り添いながら、日々楽しく充実した毎日を過ごせるように理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の催し物に参加し、地域に出向く事で交流の機会を作っている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、少しずつ地域との交流の再開に向けて検討を始めている。作品を制作して大任町文化祭に展示している。病院受診の帰りに買い物に立ち寄り、散歩時に地域の方と挨拶を交わす等、出来る範囲での地域との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にケアの報告を行っている。また、地域の行事への参加や病院や美容院を利用し、認知症の人に対する理解を深めてもらう様になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。支援内容を報告し、意見や要望を伺い、日々のサービス向上につながる様になっている。	新型コロナ5類移行に伴い、会議には、複数の家族、地域包括支援センター職員、役場職員の参加を得ている。ホーム運営や取り組み、利用者の状況、ヒヤリハット、インシデント、事故等を報告し、各委員から意見や要望、情報提供を受け、出された内容をサービス向上に活かしている。	コロナ収束後には、外部からの参加委員の増員を図り、地域の課題についても一緒に取り組んでいけるような会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では役場担当者や地域包括支援センター、社会福祉協議会も参加し、意見交換をして情報交換を通して、協力関係を築いている。	管理者は、役場の担当窓口にはホームの空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例を相談する等、行政と連携を図っている。運営推進会議に、役場職員と地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を説明し、意見や情報交換を行い協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を開放し、行動の制限は、していない。身体拘束については、日頃よりしないように委員会や職員会議で適切なケアについて再確認し、身体拘束委員会等で見直しを行っている。	年2回、身体拘束についての研修を実施し、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、今現在、利用者の事で困っていることについて話し合い、職員の意識づけを行っている。また、運営推進会議後に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしない、させない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づいた内部研修や外部研修に参加し、正しい理解と共有を図っている。日頃より人権を尊重した対応を心掛け、不適切なケアが行われない様、環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開業以来、制度を利用したことはないが、今後必要となった時は、関係機関と連携を図り、制度活用に向けて支援体制を整える。	権利擁護の制度の資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、内容を分かり易く説明し、関係機関(社会福祉協議会)と連携を図り、制度活用に向けての支援体制を整えている。現在、制度活用の利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際には、管理者が十分な時間を設け、説明し、理解、納得をして頂いている。入居後も、不明な点があれば相談に応じ、説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者より意見や要望があった際は、できる限り意向に沿うように努めている。家族からは、来所時や運営推進会議等で意見を聞いている。	日常会話の中から、職員は利用者の意見や要望を聴き取り、実現に向けて支援している。また、家族面会や電話等の機会に、家族とコミュニケーションを取りながら利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。また、毎月「笑顔だより」を送付している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、毎月の職員会議で聴取りしている。そして日々管理者が職員より、意見を聞くようにしている。	月1回、ほとんどの職員が参加して、ユニット毎の職員会議を開催し、職員の意見が言いやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。職員の提案については、管理者会議を経て代表に相談し、出来るだけホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、職員と面談を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢にとらわれず平等性、公平性を重視しながら採用を行うよう配慮している。	風通しが良く働きやすい職場環境の中、管理者を中心に職員がチーム介護に取り組み、離職も少ない。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担を行い、職員が生き生きと働ける環境作りに取り組んでいる。また、外部研修参加や資格取得を奨励し、バックアップ体制を整え、職員一人ひとりのスキルアップに繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼にて、毎日基本理念を唱和し、人権尊重、倫理規範の保持を意識するよう努めている。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を、職員会議や研修の中で話し合い、慣れからくる言葉遣いの乱れには注意している。また、毎日理念を唱和することで、職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切にする事の意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも参加し、参加した職員は、研修報告を行い、情報を共有している。事業所内では、毎月内部研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、他の事業所の話の聞いたり、毎週来てくれる訪問看護師の話しを聴き、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や病院に出向き、本人に会い気持ちを聞いたり、家族や関係者に様子を聞き情報を集めている。可能であれば入居前に、本人に施設に見学に来てもらう。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族と話しをする機会を多く持ち、信頼関係を築くよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族、職員が話し合い、ニーズに基づいた支援内容を検討し、サービスの提供が出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話を大切にし、何を思い感じているかを考えながら接している。何でも言ってもらえる関係性を築ける様努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、運営推進会委員会の参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知り合いの人が来られたり、電話が掛かってきたりしている。	現在、面会は事務所内でパーテーション越しに15分程度と制限の上でお願いしている。病院受診の帰りに自宅の前を通ってみたり、電話で話が可能な利用者には電話を取り次いで話してもらう等、今できる範囲での馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、トラブルにならないように配席には気を使っている。行事やレクリエーションなどを行う際には、状況に合わせ職員が間に入りながら関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族とは、必要に応じ相談に乗り、情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、本人の思いや、気持ちをくみ取る様に努めている。 また、家族とも相談し、その人らしい生活が出来る様に努めている。	日常会話から、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報共有して、介護サービスに反映させている。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族に相談したり職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い、話しかけ、利用者の表情を観察しながら思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴を本人、家族、関係者等から聞き取りを行い、情報収集し、入居に至るまでの経過を把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の望む生活を尊重し、日々少しでも変化や気付きがあれば記録し、申し送り等で職員間の情報共有を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議にて、個々の課題を話し合っている。計画に沿ったモニタリングを介護職も毎月行っている。また面会時に家族からも意向を伺ったり医療関係者からのアドバイスなどを反映させ、介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、月1回の職員会議の中で利用者一人ひとりの課題について話し合い、利用者本位の介護計画を、入居してすぐの方は3ヶ月で見直し、それ以降は6ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があれば、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケア記録を行うよう努力している。日々状況の変化を職員間で情報共有し、計画見直しに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況の変化を把握し、職員でその都度話し合いをし、その時々に必要なケアを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所以前のかかりつけ医は、入居後も継続して利用する対応をしており、安心、安全に暮らしが出来るよう地域資源を活用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力、入所前にかかっていた病院に現在も受診している。受診時に心身状態を報告し、ご家族も納得の上で、適切な医療が受けられるよう主治医と連携を行っている。	入居時に、利用者や家族の希望を優先して主治医を決定している。入居前からのかかりつけ医の継続受診を行い、利用者の医療情報を家族と共有している。ホーム協力医、訪問看護師、訪問歯科とも連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護による体調管理を行っている。緊急時や相談時は常時対応してもらっている。相談しやすい関係であり、連携が取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者に早急に情報提供が行えるように、入院時は家族様と共に病院に行き、主治医、担当看護師、ソーシャルワーカー等と面談している。早期退院と円滑な受け入れが行えるよう、頻りに訪問したり電話による近況報告を受けたりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の作成、急変時及び終末期における医療や介護の関する事前調査書での意思確認を行うようにしている。終末期にはチーム支援を行えるよう体制作りに取り組んでいる。	契約時に、重度化、終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明し、意思確認を行っている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連携し、主治医も交えて方針を確認し、関係者で方針を共有して、利用者がホームの中で安心して終末期を過ごせる支援体制を整えている。これまでに数名の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についての研修を行っている。また日頃少しでも体調変化が見られた場合には、急変時対応について検討している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物外への避難誘導、消火訓練を実施。大雨による河川氾濫については、地域の状況など配慮して場所の確保等、町村や地域の方と協力し検討している。	台風、河川氾濫、地震等を想定して避難誘導訓練を行っている。近くに川がある為、増水時には隣接する施設へ避難した経験もあり、日頃から地域の消防団や行政と情報交換を行っている。令和3年5月に行政と話し合い、新たな避難場所を確保している。また、災害時に備えて非常食や飲料水、利用者一人ずつマットを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念を基に人権やプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。日頃より個々に応じたその時々言葉かけ等を職員間で話し合い、対応している。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方について職員間で常に話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応を心掛けている。特に、排泄や入浴の場面では、利用者のプライドや羞恥心を大切にした支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、個々の思いを理解するように努めている。言葉が上手に出ない方には「はい、いいえ」で答えられるように問いかけたり、表情を見て思いをくみ取る様に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や心身の状態に応じ、その時々にしたいたい事を尋ね、希望に沿うように支援している。言葉に出せない方には表情や動作を見て、接している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は自分で選んでいる。自分で選べない方はTPOに合わせた洋服に着替えている。お化粧が好きな方には、行事の時などにお化粧をして頂いてる。希望時には、美容院に来てもらう。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を一緒に考えたり、旬の物をメニューに取り入れている。リクエストに合わせて、お菓子作りや下準備やお盆拭きの協力をして頂くこともある。家庭的な雰囲気での食事をして頂く機会を作っている。	利用者の食べたい物を聞きながら、新鮮な食材を使って職員が作る美味しい料理を提供している。土筆を取ってきて利用者と袴どりをして食卓に添えたり、誕生日や行事の時には手作りのご馳走が並び、利用者大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量や形態に配慮している。バランスの良い食事となるよう献立を作成している。水分量のチェックも行い管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科やかかりつけの歯科医に個々に応じたケアのアドバイスを受けている。毎食後個々に応じ、歯間ブラシやスポンジ、歯ブラシ等を使い口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。オムツ使用の際も種類など検討している。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、職員2人体制でトイレ誘導を行っている。夜間は利用者の希望と状態に配慮しながら、トイレ誘導、ポータブルトイレの設置、オムツやパットの使用等、柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事提供に心掛けている。水分量もチェックし適度な水分を摂って頂くよう支援している。個別でヨーグルトを飲んでいる方もいる。便秘傾向の方は主治医や訪問看護師と相談し、下剤の調整を行うこともある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回、入浴している。本人の希望の時間帯に合わせ、毎回時間調整している	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら、週3回を基本としている。リフト浴を設置し、重度化しても安全に入浴出来る支援体制が整っている。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、無理な場合は清拭や足浴に変更して無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、居室やソファで休息できるようにしている。夜間不眠の場合は、日中の過ごし方について、朝礼や職員会議で検討し、支援に取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をいつでも確認出来るように、所定の場所に設置している。薬の追加や変更時は薬効、副作用、用法、用量等を申し送り等で行い情報共有している。薬チェックリストを活用し、投薬間違いがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好を考慮し、状態に応じた活動を行うようにしている。ご家族の協力も多く、楽しく過ごせるように一緒に考え、支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃はいつでも散歩や買い物に行きたい等要望がある時は、すぐに対応するよう努めている。コロナ5類移行後、近くのカフェに出かけたり、少しずつ外出の機会を増やす様に努めている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、外出行事を少しずつ再開している。季節毎の花見や買い物、病院受診の帰りの寄り道、敷地内の散歩等、利用者の希望を聴きながら今出来る支援に取り組み、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預り金として、本人様のお金を預り、好きな時に欲しい物を購入したりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けて欲しいと希望される方には、その都度職員が電話を掛けて話をしてもらったら、利用者に代わり用件を伝達している。本人様宛の手紙が届いた時には本人に手渡したり、代読している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行器使用者が多く、歩行する際に邪魔になったり、ぶつかったりしないよう配慮している。温度計で室温や湿度に注意し必要に応じて調整している。換気により、寒さや暑さを訴える方がいる場合は、窓を開ける場所を工夫したり、一時的に場所を動いてもらったりして協力して頂いている。	館内は、利用者と一緒に作成した貼り絵の壁画や季節に合わせた掲示物を飾っている。オープンキッチンからは、調理の音や料理の美味しい匂いが漂い、アットホームな雰囲気である。天井からの採光で室内は明るく、掃除も行き届き居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食堂やテレビ前のソファ、自室にて自由に過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族様から意向を聞き、馴染みの物を持ち込んで頂くようお願いしている。本人、ご家族の希望で模様替えをすることもある。	利用者の使い慣れた馴染みの家具や大切な人形、仏壇、アルバム、身の回りの物等を持ち込んでもらっている。壁に家族の写真を貼ったり、利用者自身で作られたパッチワークの作品を飾り、「自分の部屋になった」と言われる方もいる。好みの物を置いて、利用者が安心して過ごせるように配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の部屋扉には、手作りの表札をつけ、トイレ等も分かるように表示している。歩行器使用の方が多いため、スペースはなるべく広く取るようにしている。		